

第1回 興津地区防災機能強化調整会議

資料 1 平成26年10月6日に発生した斜面崩壊の対応について

平成 26 年 10 月 11 日

静岡県交通基盤部

内線 3382, 7884

興津地区斜面崩壊箇所周辺部の専門家による調査結果について

1 調査の概要

(1) 調査日

平成 26 年 10 月 10 日 (金)・11 日 (土)

(2) 調査員

合計 47 名

【地すべり専門家】

- ・ 静岡大学農学研究科 教授 土屋 智
- ・ 独立行政法人 土木研究所 土砂管理研究グループ 地すべりチーム
上席研究員 石井 靖雄 外 2 名

【国】

- ・ 国土交通省中部地方整備局 11 名

【専門業者：17 名】

【静岡県】

- ・ 交通基盤部河川砂防局、森林局、静岡土木事務所、
経済産業部中部農林事務所 計 15 名

(3) 現地調査内容

- ① 調査範囲 L=900m (第 2 洞トンネル～由比直轄地すべり対策事業南側境、
但し J R 東海の工事箇所は除く、詳細は別紙参照)

- ② 調査内容

台風 18 号の豪雨により発生した変状の把握

- ・ 斜面の崩壊、新たな亀裂、陥没、湧水等の有無
- ・ 斜面上部遊歩道、斜面末端部擁壁等の変状の有無

2 調査結果

- ① 全体的には特筆すべき斜面の変状等は確認されなかった。
- ② 局所的には以下の 2 箇所において土砂の移動が確認された。
 - ・ 土砂の流出 1 箇所 (幅 2.0m、高さ 2.0m)
 - ・ 空石積の崩れ 1 箇所 (幅 1.6m、高さ 1.6m)

3 総括

- ① 全体的には崩壊・地すべりに繋がるような、新しい斜面の変状等は確認されなかった。
- ② 調査により確認された 2 箇所の土砂の流出と空石積みの崩れはいずれも軽微なものである。
- ③ 調査範囲は急斜面で、過去に崩れた痕跡なども見られるため、関係機関と連絡体制を整えるなど、接近が予想される台風に留意し、被害の軽減に努めたい。

